

(1) 町の学校に入学



1926(大正15)年加藤は学齢を迎えた。加藤の従兄たちは、ある者は暁星小学校に行き、ある者は青山師範付属小学校に進んだ。女の子たちは雙葉や聖心に通った。しかし父信一は、町の普通の小学校に入り、町の子どもと交わることをよしとした。母織子もその考えに賛同した。(写真：小学1年生の加藤周一、1926年)

加藤が住まいした金王町は、渋谷町立渋谷小学校(現在は廃校)の学区に属した。本来ならば渋谷小学校に通うべき地域であったが、1925(大正14)年12月に新設された渋谷町立常磐松小学校(現在は渋谷区立常磐松小学校)に入学する。そのために南青山に住んだ辰野保

(陸上競技選手、弁護士、政治家、フランス文学者辰野隆の実弟)の家に寄留している。父信一の患者だったがゆえのことだったろう。常磐松小学校の記録では入学時の加藤の住所は南青山と

なっている。町の学校に行かせることを主張した父信一が、通うべき学校に通わず、寄留までして新設小学校に通わせようとしたのか、その理由は定かではない。